

# ふるさと奥尻通信

平成29年3月31日  
奥尻町教育委員会発行  
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

## 巻頭言

島の出入りは船。今も昔も変わらないはず。人は島に無いものを携えて往来したであろう。遺物を吟味すると、文化の広まりは遅くとも、着実に広まっていったことがうかがい知れる。

## 特集 青苗遺跡出土品が道指定有形文化財に決定！

この度、青苗遺跡出土の土器と骨角器119点が北海道の有形文化財(考古)に指定されました。島内での道指定物件は、松前家所蔵の「新羅之記録」(北海道最古の歴史書)、道指定史跡「青苗砂丘遺跡」(オホーツク文化の南限)に次いで3例目、檜山管内では、せたな町の「南川遺跡出土品」(昭和50年に墳墓群から出土した続縄文時代の土器25点と石器208点)に次ぐ2例目となります。

遺跡は、島の南端青苗地区でも、青苗湾を見下ろす海岸段丘上に立地し、段丘上には縄文時代前・中期の住居跡や土器・石器などが大量に見つかっています。その段丘から海岸部へ続く緩斜面には、擦文時代の貝塚があり、古くから学界の注目を集めていました。というのも、北海道の擦文時代(7～12世紀頃)は、本州の日本史上では平安時代に相当しますが、この頃の北海道本島では、土器の作り方(縄文が消える)や住居内のかまどの設置、鉄器使用の本格化などの面で本州の影響を受けながらも、途中で北方のオホーツク文化(5～9世紀)の流入もあってか、道内でも地域によって生活様式の多様性があります。



青苗遺跡調査風景



調査後に完成した道路



擦文土器



骨角器

青苗貝塚が形成された時期は、土器の特徴からみて11～12世紀のことで、擦文時代でも後半の時期に当たります。この頃は、すでに縄文時代のような貝塚が作られるような時代ではなく、日常の生活用具も鉄の道具が大量に出回り、鍛冶の技術も伝わったために石器は駆逐されました。また、ムギ、アワ、キビなど栽培食物の痕跡が見られることから、ある程度の農耕が行われていたようです。しかしながら、海に囲まれた奥尻島では擦文人による漁労生活が盛んに行われ、現在では絶滅したとされるニホンアシカや、現在でも島の名産品である、アワビやウニ、カサゴ類(ソイ、ハチガラ、メバル、ホッケ、アブラコ、カジカなど)を捕獲していたことが、貝塚の調査で判明しました。

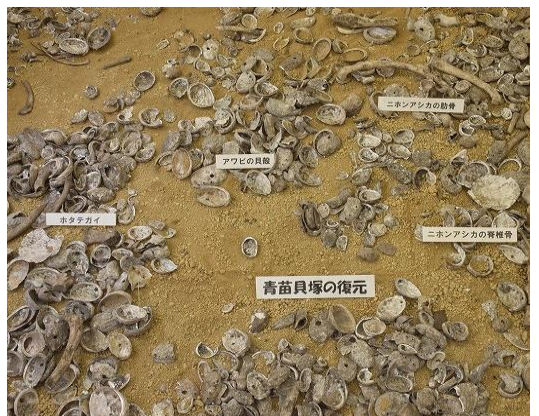
また、それらを捕獲するための道具として、シカやクジラの骨で作られた銚頭(もりがしら:柄が抜けて、矢じりが体内に残るタイプで、離頭銚と呼ばれるもの)の基部や、それを柄に接続するための中柄(なかえ)などが見つかると、精巧な装飾が彫り込まれているものもありました。銚頭の中には、1点だけ鉄製の矢じりが装着されたままのものがあり、当時の狩猟方法を解明する参考資料となりそうです。

青苗に貝塚が形成された理由を考えると、当時の擦文人の主目的が、海獣類や魚介類の捕獲と加工であったとするならば、島はまさにその良好な漁場であり、360度海水面が存在するという離島ならではの利点があったため、天候に左右されずに安定した漁労活動ができたからだろうと思われます。東風なら島の西側に、西風なら島の東側に、という具合です。

今回指定された土器と骨角器は、5月中旬より海洋研修センターにて一般公開する予定です。



道文化財保護審議委員の現地調査



青苗貝塚の復元

青苗貝塚の復元 稲穂ふれあい研修センター





鍋釣岩の頂上から谷地地区の海岸線と街並みを写したものです。昭和60年代でしょうか。この辺りは、谷地地区のなかでも、昔の字名から通称「なべつる」と呼ばれた地域で、目の前は砂浜、後ろは山という立地で、道路の両側に残った狭い平場に家が建っていました。今でこそ、商業を営む家は一軒しかありませんが、昭和30年代のここの人方の稼業は南谷(元船大工、運送業)、平木別家(船大工)、カクセン佐藤(鍛冶屋)、センダイ佐藤(運送業)、平木本家(竹籠、ドンキミ)、長谷川(運送業、畜産)、工藤(木工所)、工藤組、伊藤(土建業)などで、ちょっとした工業地帯だったと地元の人々は回想します。子供心には興味をそそられる職業の家が連なっていたということでしょう。

私の釣魚大全

開高 健



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

私の釣魚大全 開高 健

作家開高は釣りの愛好家であったが、国内外の釣りのついて面白く紹介する。何よりその醍醐味とも言うべき大物釣りや釣り方の妙技についても現地のエピソードを交えて巧妙に書く。ミズに始まり、コイ、タナゴ、ワカサギ、カジカ、戦艦大和？、タイ、カワマス、カチョックなどなど。井伏鱒二が鱒を釣るとはこれまた？巨大クエの話は凄かった。

月刊 奥尻のつり 3月号

サクラマスはポツポツ釣れているようですが、大きな盛り上がりはありません。今期はやや低調といったところでしょうか。一方、春の磯釣りシーズンは目前ですので、皆さん準備を始めていることでしょう。一足早い3月26日の夜、松江港の防波堤先端で釣りをしていると、大物のホッケが上がりました。測ったところ、なんと55.5cmもある根ポッケでした。毎年春に回遊してくる若い春ポッケとは違い、沿岸の岩礁域に根付いてしまった一群で、数年かけて個体が大きく成長しています。大きさに割に脂ののりも程よく、開きにして焼くか、干してから煮つけると非常に美味です。春ポッケの漁獲高は年々減少し、どうもこの春も期待薄です。地元で「えんどっこ」巻く(万単位のホッケの大群が柱状に回遊する)と呼ばれる状況になってほしいものです。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つけ1ヶ月 第19回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「島の子」第八号より  
 た達りのの覚たも霧雨濡ナ中だに尾をい  
 らわ止空よま。なのでれヤで。な釣ぐた雨  
 大いん真うし波い様真にに母やるっ。は  
 し、だ赤だたのでだ白な掛やっのたと東潤  
 た騒後に。ら音、。くっけ弟ばで。上風に  
 赤いは焼東も高生飯ぼてたとり家そげに入  
 くで気け風うく活喰やしり兄嬉のれたなる  
 ない分てだ晩聞日っけまし達し為で。る迄  
 たが。だこ誌たてってでかにも今とず  
 た。よた時っえをを見た、。っも四日言っ  
 つ。鳥い。化たるっ別え。全さたな円はうと  
 づ。賊。雨だ。けにな久くい。る許八の降  
 く。を子の。波眠て仕い遠ずた雨わり十でっ  
 見供降東山を寝事。はぶりのけ 二船て

シンほと路が町も後報がで  
 たブと。の始内少、道大ド昨  
 。のんシ雪までな年さ混カ年  
 出どーもりもい明れ乱雪十二  
 番なズ消、二降けてすが二月  
 もくンえ三月雪以いるあ二月  
 あ、中で月中が降まとりには  
 リマのしに続はしい、は  
 まドま頭はき平たう札道  
 せさかいに雪、年。事幌央  
 んん雪まは解奥よそ態市地  
 でダもし道け尻りのが内方

今冬は小雪でした



なんとか工期に間に合いました

（幌設海建アを学公早成の設  
 函）備老築ト現者開速し新し昨  
 館、が原がりしがさ、、校て年  
 ）電池建田エてあれ関引舎い六月  
 と気田設畑づいり一係きがま月  
 な設媛（建ンま、○者渡三十二  
 つ備房奥設クし注○や一月十一  
 てが工尻（へ）た目名一れ十奥一  
 い樺業（江）度。度一般ま五尻日  
 ま電（、差幌設の上町し日中より  
 す工札機（）計高の民たに学り  
 。業 械と、がさ見へ。完校建

中学校新校舎完成!

なでまかね（り十統古は  
 く、おるつ）ま、年合資道年度  
 。釣りのた。事、に、料の度一  
 とりまでの今い務一新の文末  
 い道すはで年つ局度校の整理  
 つ具。な、はも内、の舎理、指  
 たのとい魚雪のも事建、学定  
 と準いかの解こ大案設校に二  
 こ備うと回けと忙がな校係八  
 ろにこ期遊がでし重、校、年  
 余と待も早すでな、校、度  
 念し早がす数、考

新卒之記録 (編集後記)

場ら長テ化み真キ力四業がし  
 を、寿ナしらの一導八を、た一月  
 守ウ命つれ展大入名終三月  
 つイ化すつま示会やのえ月桜  
 てンををあしな四ロ利ま十二丘  
 いタ図小るたど○ツ用した日ス  
 きーつま諸。工回ジがた。日ス  
 たステめ設今夫記のあり延今  
 いポいに備後し念美り、べ期場  
 でしき行のはたの化、機二の  
 すツないメ老面古、機一營す  
 のが、ン朽が写ス械一

スキー場無事に終了



後志奥尻郵便局の消印切手 明治31年